

令和5年度
授業シラバス
【3年次】

志高く
未来を
創る

題字/松岡 篤志（元西高教諭）

北海道函館西高等学校

3 年次		選択 3 1・選択 3 2		
教科	科目	単位数	学級編成	担当者
国語	国語表現	3	選択授業	小牧陽二郎・長澤元子
教科書	高等学校 改訂版 国語表現			
補助教材	「改訂版 現代語練習帳 このとは」・「思考力・判断力・表現力 継成問題集」			
目標	科目	「聞く・話す・読む・書く」能力を育て、自己を適切かつ豊かに表現したり、目的や場に応じて効果的に表現したりする能力を育てる。		
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力
		自分を知り、自分の思いや考えをまとめることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現	
	・基礎的な言語事項の学習を習慣化し、国語の基礎知識を身に付ける。 ・文章表現の基礎練習を通して、意図に応じた適切な表現による文章を書く。		・スピーチ、グループ学習・発表で、目的や場に応じた効果的な表現をする。	
			主体的に学習に取り組む態度	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト ・提出物		・個人スピーチ ・グループ学習 ・グループ発表 ・提出物	
			・言語文化に対する関心を深め、積極的な態度で言語活動に参加する。	
			・個人スピーチ ・小テスト ・提出物	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	オリエンテーション 表現の楽しみ 表現の基礎	個人スピーチ 漢字の読み書き 故事成語 ことわざ 文章表現1 文章読解要約	○	◎	○	【話すこと・聞くこと】 ・設定テーマに応じたスピーチができた。 ・情報を正確に関心取り、整理することができた。 【書くこと】 ・漢字の読み、書き取りを理解し、活用できた。 ・さまざまな表現技法を適切に使用することができた。
(前期中間考査)							
6-8	18	表現の実践1 表現の実践2	記録文 個人スピーチ 文章読解 文章表現2 四字熟語	○	◎	○	【話すこと・聞くこと】 ・設定テーマに応じたスピーチができた。 ・聞き取った情報に対して、自分の考えを踏まえ批評することができた。 【書くこと】 ・原稿用紙を正しく使用できた。 ・四字熟語等の意味を理解し、活用できた。 【読むこと】 ・課題文章を理解し、問題を解くことができた。
(前期期末考査)							
9-11	33	表現の実践3 表現の実践4	小論文の書き方 課題作文 グループ学習・発表 個人スピーチ 評論読解演習	○	◎	○	【話すこと・聞くこと】 ・設定テーマについてグループで話し合い、まとめ、発表することができた。またテーマに応じたスピーチができた。 【書くこと】 ・課題に応じた小論文を書くことができた。 ・慣用表現等の意味を理解し、活用できた。 【読むこと】 ・課題評論文を理解し、問題を解くことができた。
(後期中間考査)							
12-3	30	表現の探求	日本語の理解 評論読解演習	○	◎	○	【書くこと】 ・日本語の特徴を理解し、適切に使うことができた。 【読むこと】 ・課題評論文を理解し、問題を解くことができた。
(後期期末考査)							

合計 105

3 年次 必修

教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
国語	現代文B	2	クラス単位		大地 博 ・ 天満谷 貴之	
教科書	改訂版 現代文B					
補助教材	図説国語 即戦ゼミ入試頻出新国語問題総演習三訂版 評論速読トレーニング2000					
目標	科目	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度をそだてる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やまじり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。		・ 近代以降の様々な文章を的確に理解し、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 ・ 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くことができる。		・ 国語の向上を図り人生を豊かにすべく、進んで読書しようとする。 ・ 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合おうとする。	
評価の方法	・ 提出物 ・ 小テスト ・ 定期考査		・ 提出物 ・ 小テスト ・ 定期考査		・ 提出物 ・ 小テスト ・ 定期考査	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	評論(一) 『文化』が違えば何を意味するのか 小説(三) 『檸檬』	・現代の世界情勢と関連させて読解する。 ・時代背景を踏まえて読解する。	○ ○	◎ ◎	◎ ◎	<読むこと> ・評論文の読解を通して異文化理解についての視点を理解する。 ・小説の読解を通して青年期の心情の揺らぎを理解する。 <書くこと> ・多文化主義と覇権主義の違いを、具体的な事例を挙げて300字程度で説明することができる。 ・「心の不可思議さ」について、自分が経験したことを800字程度で書くことができる。
前期中間考査							
6-8	12	評論(二) 『『である』ことと『する』こと』 小説(二) 『赤い顔』 『朝のヨット』	・精簡に取組み、本文に書かれた歴史的対象に触れつつ読解する。 ・小説の自由について考察を深めながら読解する。	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	<読むこと> ・評論文の読解を通して「権利の行使」「価値の倒錯」についての理解を深める。 ・社会や人間存在そのものの不条理について理解する。 <話すこと・書くこと> ・読解を通して得た知見を踏まえて、成人年齢が18歳になったことに対する自らの意見を他者にわかりやすく伝えることができる。 ・読後の感想について話し合える。または文章として言語化できる。
前期期末考査							
9-11	22	評論(三) 『メディアのテロル』 小説(一) 『舞姫』	・メディアの功罪について読解する。 ・明治の立身出世について読解する。	◎ ○	◎ ◎	◎ ◎	<読むこと> ・報道やドキュメンタリー作品の作爲について、具体的な事例を想起しながら読み取ることができる。 ・擬古文のリズムを理解できる。 <書くこと・話すこと> ・時事問題と関連付けて意見を言うことができる。 ・鑑賞文をまとめることができる。
後期中間考査							
12-3	20	「人はなぜ働かなくてはならないのか」	・「労働」の概念について考える。	◎	◎	◎	<読むこと> ・評論文の読解を通じて、「労働」とはなにか、理解を深めることができる。
(後期期末考査)							

3 年次

選択 3 4

教科		科目	単位数	学級編成		担当者	
国語		古典発展β	2	選択授業		佐藤 和範	
教科書		精選古典B新版 (東京書籍)					
補助教材		古語辞典、国語便覧、新精選古典文法、新明説漢文、古典速読トレーニング標準(教研出版)					
目標	科目	古典Bで学習したことを深め、古文、漢文の読解に必要な知識を身につけ、古典を読み解く力を要請する。					
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力	
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・文語文法を理解する。 ・漢文の句法を理解する。 ・古文、漢文の語彙を習得する。 ・文学史、古典常識を習得する。			・習得した知識事項を用いながら、逐語訳をすることができる。 ・文学作品の背景を理解して、イメージすることができる。		・主体的に古典作品について探求し、自ら発見したことをプレゼンテーションし、レポートとしてまとめる。	
評価の方法	・単元テスト ・定期考査 ・口頭試問			・単元テスト ・定期考査 ・口頭試問		・プレゼンテーション ・レポート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標
4-5	16	(古文) 随筆 説話	・用言、助動詞の復習 ・『方丈記』安元の大火 ・『発心集』蓮花城、入水のこと	◎	○	○	【読むこと】 ・接続を意識しながら、用言、助動詞を判別しながら読むことができた。 ・古文単語の意味を理解しながら、的確に本文内容を解釈することができた。 ・鴨長明の表現の特徴や思考について自分なりの発見を見いだすことができた。 【書くこと】 ・説解した内容について、現代社会における事象と照らし合わせながら、自分の考えを書くことができた。
		前期中間考査					
6-8	12	(漢文) 小説 詩	・『陶淵明集』桃花源記 ・李白と杜甫 ・「秋浦歌」「独坐敬亭山」 ・「早發白帝城」「月下獨酌」 ・「石壕吏」「月夜」「登高」	○	◎	○	【読むこと】 ・漢文の基本文型や句法を理解し、内容を読み取ることができた。 ・当時の人々の理想郷の概念と、現在自分たちが求めることを比較しながら考えて読むことができた。 【書くこと】 ・李白、杜甫それぞれの詩の中から、自分の一番好きな詩について、鑑賞レポートを執筆することができた。
		前期期末考査					
9-11	22	(古文) 物語 近世の文章	・『源氏物語』須磨の秋 ・『雨月物語』浅茅が宿 ・『源氏物語玉の御簾』もののあはれ論	○	◎	○	【読むこと】 ・時代背景と状況を理解し、登場人物の心情を読み取ることができた。 ・和歌の修辞法について理解を深め、作品全体の内容に鑑みて鑑賞することができた。 ・評論文に表れている古人のものの見方や感じ方、考え方を理解することができた。 【書くこと】 ・古人のものの見方や考え方に対する自分の考えを論理的に表現することができた。
		後期中間考査					
12-3	20	古典作品研究	・自ら未読の作品を取り上げ、設定したテーマに基づき作品を鑑賞し、プレゼンテーションする。	○	○	◎	【読むこと】 ・未読の作品の文章にあたり、内容を理解することができた。 ・適切にテーマを設定することができた。 【書くこと】 ・わかりやすく資料を示し、適切に自分の考えをまとめることができた。 ・他者のプレゼンテーションに対する批評文を書くことができた。
		(後期期末考査)					

合計 70

教科	科目	単位数	学級編成	担当者		
国語	古典研究α	3	選択授業	佐藤 和範 ・ 大地 博		
教科書	精選古典B新版 (東京書籍)					
補助教材	古語辞典、国語便覧、新精選古典文法、新明説漢文、古典速読トレーニング標準(教研出版)					
目標	科目	古典Bで学習したことを深め、難解な古典について読解ができる知識を身につけ、様々な種類の古典を読み解き、鑑賞する力を養成する。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 文語文法を理解する。 ・ 漢文の句法を理解する。 ・ 古文、漢文の語彙を習得する。 ・ 文学史、古典常識を習得する。		・ 習得した知識事項を用いながら、逐語訳をすることができる。 ・ 文学作品の背景を理解して、イメージすることができる。		・ 主体的に古典作品について探求し、自ら発見したことをプレゼンテーションし、レポートとしてまとめる。	
評価の方法	・ 単元テスト ・ 定期考査 ・ 口頭試問		・ 単元テスト ・ 定期考査 ・ 口頭試問		・ プレゼンテーション ・ レポート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	(古文) 随筆 説話	・ 用言、助動詞の復習 ・ 『方丈記』安元の大火 ・ 『発心集』蓮花城、入水のこと ・ 『宇治拾遺物語』留志長者のこと ・ 『十訓抄』成方といふ笛吹き	◎	○	○	【読むこと】 ・ 接続を意識しながら、用言、助動詞を判別しながら読むことができた。 ・ 古文単語の意味を理解しながら、的確に本文内容を解釈することができた。 ・ 鴨長明の表現の特徴や思考について自分なりの発見を見いだすことができた。 【書くこと】 ・ 読解した内容について、現代社会における事象と照らし合わせながら、自分の考えを書くことができた。
前期中間考査							
6-8	18	(漢文) 小説 詩 白楽天と日本文学	・ 『陶淵明集』桃花源記 ・ 李白と杜甫 ・ 「秋浦歌」「独坐敬亭山」「早发白帝城」「月下独酌」「石壕吏」「月夜」「登高」「長恨歌」と『源氏物語』『枕草子』	○	◎	○	【読むこと】 ・ 漢文の基本文型や句法を理解し、内容を読み取ることができた。 ・ 当時の人々の理想郷の概念と、現在自分たちが求めることを比較しながら考えて読むことができた。 ・ 日本の文化と中国の文化との関係について理解することができた。 【書くこと】 ・ 李白、杜甫それぞれの詩の中から、自分の一番好きな詩について、鑑賞レポートを執筆することができた。
前期期末考査							
9-11	33	(古文) 物語 近世の文章	・ 『源氏物語』須磨の秋 ・ 『雨月物語』浅茅が宿 ・ 『源氏物語玉の御簾』もののあはれ論 ・ 『去来抄』 ・ 『三冊子』	○	◎	○	【読むこと】 ・ 時代背景と状況を理解し、登場人物の心情を読み取ることができた。 ・ 和歌の修辞法について理解を深め、作品全体の内容に鑑みて鑑賞することができた。 ・ 評論文に表れている古人のものの見方や感じ方、考え方を理解することができた。 【書くこと】 ・ 古人のものの見方や考え方に対する自分の考えを論理的に表現することができた。
後期中間考査							
12-3	30	古典作品研究	・ 自ら未読の作品を取り上げ、設定したテーマに基づき作品を鑑賞し、プレゼンテーションする。	○	○	◎	【読むこと】 ・ 未読の作品の文章にあたり、内容を理解することができた。 ・ 適切にテーマを設定することができた。 【書くこと】 ・ わかりやすく資料を示し、適切に自分の考えをまとめることができた。 ・ 他者のプレゼンテーションに対する批評文を書くことができた。
(後期期末考査)							

3 年次 選択 3 4、3 6

教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
国語	国語発展 8	2	選択授業		大地 博 ・ 長澤 元子	
教科書	ルート現代文 1、ルート現代文 2 (啓隆社)					
補助教材	辞書					
目標	科目	平易な文章の読解と設問演習を繰り返しながら、基本的な漢字・語彙の知識を身につけ、現代文読解の基礎力を養う。また、文章の内容を的確に要約したり、自分の意見を適切に表現できるようになる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 基本的な漢字や語彙の知識と現代文読解力を身につけることができる。		・ 平易な文章の読解と設問演習を通して、文章の大意をつかみ、設問の意図を考えながら解答することができる。		・ 現代文に関心を持ち、進路目標を意識しながら、自ら進んで学習することができる。	
評価の方法	・ 問題演習 ・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 提出物		・ 問題演習 ・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 提出物		・ 授業態度 ・ レポート ・ 提出物	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション ルート 1 1～10	授業の進め方の説明 問題演習 百字要約 小テスト	◎	○	◎	・ 授業内容と進め方について理解し、進路目標と照らし合わせながら、学習の見通しを持つことができた。 ・ 平易な日本語の文章を読んで、文の要素に気をつけながら正確に読解することができた。 ・ 基本的な語彙を身につけることができた。 ・ 要約するための基礎的な技術を身につけることができた。
前期中間考査							
6-8	12	ルート 1 11～21	問題演習 百字要約 小テスト	◎	○	○	・ 平易な日本語の文章を読んで、レトリックや描写に気をつけながら正確に読解することができた。 ・ 基本的な語彙を身につけることができた。 ・ 適切に日本語を使い、要約することができた。
前期期末考査							
9-11	22	ルート 2 1～10	問題演習 意見文 小テスト	○	◎	○	・ 漢字、語彙の知識をより深め、自己の進路目標に応じた現代文の読解力を養うことができた。 ・ 自分の意見を自らの言葉で表現し、適切に表現することができた。
後期中間考査							
12-3	20	ルート 2 11～20	問題演習 意見文 小テスト ふりかえり	○	◎	○	・ 抽象的な言葉を用いた日本語の文章を読んで、具体的なイメージを持ちながら読解することができた。 ・ グローバルな視野で物事を見つめ、筆者の意見に対し、的確な言葉で自分の意見を表現することができた。 ・ これまでの学習内容を振り返り、自らの得意不得意を理解して、進路実現に生かすことができた。
(後期期末考査)							

教科	科目	単位数	学級編成	担当者
国語	小論文発展	2	選択授業	佐藤 和範 ・ 長澤 元子
教科書				
補助教材	文章トレーニングノート・要約練習 20			
目標	科目	文章の構成、表現方法などを学び、800字から1200字程度の小論文を書くことができる。		
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		- 基礎的な言語事項の学習を習慣化し、応用知識を身につけることができる。 - 原稿用紙の使い方にのっとって自分の考えを文法的に正しく書くことができる。		- 言語文化に対する関心を深め、積極的な態度で言語活動に参加することができる。 - 他の文章や他人の考えを参考にし、自分の考えを表現する方法を追求することができる。
	評価の方法	- 小テスト - ワークシート提出		- ワークシート仕上げ - グループ学習、討議 - 調べ学習

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション(2) 文章表現(16)	小論文とは 正しい表現の仕方 論理的な文章の学習	◎ ◎	○ ○		- 年間学習計画を自分のスケジュールに照らし合わせることができた。 - 作文と小論文の違いを理解することができた。 - 原稿用紙の表記を理解することができた。 - 段落構成を理解することができた。 - わかりやすい表現を心がけることができた。
(前期中間考査)							
6-8	12	問題意識を共有する(8) 文章表現 2 (16)	評論キーワードの理解・背景知識の習得 文章の読解・要約 課題小論文	◎ ○	○ ◎	◎ ○	- 一般的に現代社会で問題とされている分野の背景知識を広げることができた。 - 評論文におけるキーワードについて学習を深めることができた。 - 習得した知識から派生して、自分の興味・関心のある分野について調べ、課題を見つけることができた。 - 課題文を俯瞰し、要約することができた。 - テーマに即した考えを広げ、論点をまとめて文章化することができた。 - 要約に対して、自分の考えを根拠とともにまとめることができた。
(前期期末考査)							
9-11	22	志望の動機(8)	段落構成	○	○	◎	- 志望校・目標校を絞り込み、将来の理想をイメージすることができた。 - 求められている生徒像を理解し、自分を振り返ることができた。
(後期中間考査)							
12-3	20	総合演習(12) まとめ(4) 卒業論文(4)	個別演習 手書きから入力へ 発展学習	○ ○ ◎	○ ○ ◎	◎ ○ ◎	- 推薦入試、就職試験等に向けた文章を作成することができた。 - 求められる学生像を鑑みて文章に反映させることができた。 - 一定の時間内にこれまで学習した成果を要領よく発掘させることができた。 - これまでの文章を入力し、データ化することができた。 - 興味・関心のあるテーマについて調べ、論文に反映させることができた。 - 複数の資料を自分の主張の根拠とすることができた。 - 客観的な情報から自分の考えを論理的に表現することができた。
(後期期末考査)							

教科	科目	単位数	学級編成	担当者
国語	小論文研究	2	選択授業	細木 みゆき ・ 小牧 陽二郎 ・ 長澤元子
教科書				
補助教材	文章トレーニングノート・要約練習 20			
目標	科目	文章の構成、表現方法などを学び、800字から1200字程度の小論文を書くことができる。		
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・基礎的な言語事項の学習を習慣化し、応用知識を身につけることができる。 ・原稿用紙の使い方にのっとり自分の考えを文法的に正しく書くことができる。		・文章表現の学習を通して、目的や場に応じた適切な表現により、自分の思考を表現することができる。 ・評論文・随筆の読解演習やデータの読み取りを通して、自分の考えを深め、発展させることができる。	・言語文化に対する関心を深め、積極的な態度で言語活動に参加することができる。 ・他の文章や他人の考えを参考にし、自分の考えを表現する方法を追求することができる。
	評価の方法		・小テスト ・ワークシート提出	・ワークシート仕上げ ・グループ学習、討議 ・調べ学習

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション(2) 文章表現(16)	小論文とは 正しい表現の仕方 論理的な文章の学習	◎ ◎	○ ○		・年間学習計画を自分のスケジュールに照らし合わせることができた。 ・作文と小論文の違いを理解することができた。 ・原稿用紙の表記を理解することができた。 ・段落構成を理解することができた。 ・わかりやすい表現を心がけることができた。
(前期中間考査)							
6-8	12	問題意識を共有する(8) 文章表現 2 (16)	評論キーワードの理解・背景知識の習得 文章の読解・要約 課題小論文	◎ ○	○ ◎	◎ ○	・一般的に現代社会で問題とされている分野の背景知識を広げることができた。 ・評論文におけるキーワードについて学習を深めることができた。 ・習得した知識から派生して、自分の興味・関心のある分野について調べ、課題を見つけることができた。 ・課題文を俯瞰し、要約することができた。 ・テーマに即した考えを広げ、論点をまとめて文章化することができた。 ・要約に対して、自分の考えを根拠とともにまとめることができた。
(前期期末考査)							
9-11	22	志望の動機(8)	段落構成	○	○	◎	・志望校・目標校を絞り込み、将来の理想をイメージすることができた。 ・求められている生徒像を理解し、自分を振り返ることができた。
(後期中間考査)							
12-3	20	総合演習(12) まとめ(4) 卒業論文(4)	個別演習 手書きから入力へ 発展学習	○ ○ ◎	○ ○ ◎	◎ ○ ◎	・総合型入試・大学入学共通テストに向けた文章を作成することができた。 ・求められる生徒像を鑑みて文章に反映させることができた。 ・一定の時間内にこれまで学習した成果を要領よく発掘させることができた。 ・これまでの文章を入力し、データ化することができた。 ・興味・関心のあるテーマについて調べ、論文の参考にとどめることができた。 ・複数の資料を自分の主張の根拠とすることができた。 ・客観的な情報から自分の考えを論理的に表現することができた。
(後期期末考査)							

教科	科目	単位数	学級編成	担当者
国語	国語に親しむ	2	選択授業	佐藤 和範
教科書	近現代の散文、韻文のテキスト			
補助教材	国語辞典、国語便覧、近現代の散文・韻文の文庫本			
目標	科目	近現代に書かれた散文や韻文の文芸作品に触れ、鑑賞する力を養う。また、文芸作品創作に取り組み、作品集の編集及び製本の技術を身につける。		
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現	
	・近現代文学を鑑賞するための知識を身につけ、活用することができる。 ・人生を豊かにするための基本的な文学史の修得に努める。		・近現代文学作品を読み、情景描写、心理描写など表現の仕方から、文学作品の価値を見だし、それを踏まえて、自らの作品作りに活かすことができる。 ・できあがった文芸作品について、そのジャンルに特徴を念頭に相互評価することができる。	
			主体的に学習に取り組む態度	
評価の方法	・小テスト ・口頭試問 ・演習		・講読 ・文芸創作 ・レポート ・合評	
			・プレゼンテーション ・レポート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	小説を読む	・近代の中編小説を読み、プロの朗読を聴き、その時代背景を理解し、具体的なイメージを持ちながら、読解する。 ・ストーリーボードを作成し、作者がどのような意図を持って作品作りをしたのかを考える。 ・作品に出てくる難解語彙や文学史について調べる。	○	◎	○	【読むこと】 ・明治大正期に書かれた中編小説を全編精読し、時代背景を精査しながら、追体験することができた。また、描写に注目し、現代小説との違いに気づくことができた。 【書くこと】 ・プロの朗読を聴いて、その表現の仕方を味わうことができた。 【話すこと・聴くこと】 ・ストーリーボードを書くことで、小説の構成の仕方について理解することができた。
(前期中間考査)							
6-8	12	詩を読む	・近現代の詩を数編読み、西洋、東洋の詩と比較し、その違いについて考察する。 ・歌詞と詩の違いについて考察する。 ・共鳴できる詩を一編挙げ、その詩の鑑賞レポートを執筆し、発表する。 ・詩を朗読する。	○	◎	○	【読むこと】 ・近現代の詩に触れ、西洋の詩、東洋の詩（漢詩）と比較しながら、そのポエジーの違い、表現の仕方の違いについて理解することができた。また、歌詞との違いについて理解することができた。 【書くこと】 ・近現代詩の中から、自分の一番好きな詩について、鑑賞レポートを執筆することができた。 【話すこと・聴くこと】 ・鑑賞レポートで取り上げた詩を朗読し、その詩の魅力について、説得力を持って説明することができた。
(前期期末考査)							
9-11	22	短歌・俳句を読む	・近現代の短歌、俳句を読み、単なる形式の違いだけではなく、それぞれの特質の違いについて考察する。 ・短歌、俳句の違いについて理解した上で、自ら創作し、歌会、句会の中で互いの作品について合評する。	○	◎	○	【読むこと】 ・近現代の短歌、俳句の作品を読み、その成り立ちと性質の違いを理解することができた。また、その鑑賞の仕方の違いを理解することができた。 【書くこと】 ・短歌、俳句の特質を理解して、適切に創作することができた。 【話すこと・聴くこと】 ・歌会、句会の中で、互いの作品について批評することができた。
(後期中間考査)							
12-3	20	文芸創作	・指定されたテーマに基づき小説、詩、短歌、俳句のいずれかを創作する。 ・できあがった作品を集め、作品集を制作する。 ・作品集編集に関わる役割分担をし、適切にその業務にあたる。	○	○	◎	【書くこと】 ・自分の表現したいことを適切に表現できるジャンルを選び、文芸作品の創作をすることができた。 【話すこと・聴くこと】 ・作品集の編集にあたり、主体的に話し合いに参加し、読みやすい紙面作りに取り組むことができた。 【読むこと】 ・他者の作品を読み、適切に批評することができた。
(後期期末考査)							

教科		科目	単位数	学級編成		担当者	
地歴		世界史B	3	選択授業		佐野 秀一郎	
教科書		世界史B 新訂版 (実教出版)					
補助教材		世界史のミュージアム (とうほう)					
目標	科目	1 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。 2 過去から現在までの変化の道筋を知ること、現在直面している世界の様相、社会の様相がどのようにしてできあがってきたのかを理解する。 3 歴史の中で生きた人間たちの生き方、考え方を検討し、自分の生き方、考え方を豊かにしていく。					
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力	
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	歴史上の事柄を、地域に分けて、時系列に理解できるようにする。			歴史上の事柄を、関連づけて説明できるようになる。		関心を持った事柄に対して、自分で調べたり、問を立てたりすることができる。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート			・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション		・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	第3部 一体化にむかう世界 第9章 近代ヨーロッパと大航海時代 第10章 アジア諸地域の帝国と第2次大戦時代 第11章 大西洋革命とパクス・アメリカーナ 第12章 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	・16世紀の世界 ・ルネサンス、宗教改革 ・主権国家体制、激化する覇権競争 ・東アジア世界の帝国 ・西アジア・南アジア・東南アジア諸国と第2次大戦時代 ・産業革命、パクス・アメリカーナ ・フランス革命とナポレオン ・南北アメリカの革命	◎	○	○	・中世を脱却し、新たな価値観が生み出され、世界が拡大していく過程を理解する。ヨーロッパの海外進出によって、大西洋をはさんだ分業体制が確立したことを理解させる。 ・明を中心とする朝貢貿易が第2次大戦時代をもたらした、ポルトガルやオランダも交易に参入したことを理解させる。 ・ルネサンスがもたらした芸術・思想・科学の変革と、宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解する。 ・主権国家体制の成立は、覇権競争の激化をもたらしたことを理解させる。
		前期中間考査					
6-8	18	第12章 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家 第4部 地球世界の到来 第13章 地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	・ヨーロッパの帝国主義 ・西アジアの改革 ・アフリカの分割 ・インドの植民地化 ・東南アジアの植民地化 ・中華帝国の崩壊 ・アメリカの帝国主義	◎	○	○	・イギリス産業革命によって、資本主義社会が確立したことを理解させる。 ・ウィーン体制の確立から1848年革命に至る過程を理解させる。 ・工業化が進んだイギリスとフランスに対し、遅れて工業化を進めたイタリア・ドイツ・ロシア・アメリカのそれぞれの在り方を理解させる。 ・19世紀の欧米で生まれた新しい文化が社会生活を一変させたことを理解させる。 ・アメリカ独立の歴史的意義とラテンアメリカへの影響を理解させる。 ・フランス革命の推移とともにナポレオンのヨーロッパ支配がもたらした歴史的意義を理解させる。
		前期期末考査					
9-11	33	第14章 2つの世界大戦	・第1次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制と国際協調 ・アジアのナショナリズム台頭 ・世界恐慌とファシズム ・満州事変と日中戦争 ・第2次世界大戦	◎	○	○	・帝国主義の在り様から世界の一体化がはかられた構造を理解させる。 ・列強の帝国主義的な植民地獲得競争に対して、諸地域の民族がどのような抵抗を示したのかを理解させる。 ・総力戦としての第一次世界大戦と戦後、世界の中心がアメリカに移ったことを理解させる。 ・西アジア・インド・東南アジア・東アジアの戦間期での民族独立運動を理解させる。 ・世界恐慌とファシズムの台頭と東アジアでの日中間の動向を理解させる。 ・連合国の勝利で終わった第二次世界大戦の意味を理解させる。
		後期中間考査					
12-3	30	第15章 冷戦から多極的国际社会	・冷戦時代の国際関係 ・戦後のソ連・ロシアと東ヨーロッパ ・戦後の西アジア ・戦後の東アジア ・現代の世界	◎	○	○	・緊張と緩和を繰り返した東西冷戦時代の国際関係を理解させる。 ・国際金融活動の動向や経済格差などグローバル化の負の部分の理解させる。 ・それぞれの諸地域の戦後がどのような政治・経済・外交などの取り組みを進めていったのかを理解させる。 ・「9・11」以降のアメリカの在り方を理解させる。 ・地球環境の危機に対して、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について認識させる。
		後期期末考査					

教科	科目	単位数	学級編成	担当者
地歴	日本史 B	3	選択授業	黒澤 剛
教科書	改訂版 詳説日本史 B (山川出版)			
補助教材	最新日本史図表 三訂版 (第一学習社)			
目標	科目	我が国が形成される歴史的な過程を広い視野に立って学び、世界の中の日本という意識のもと、これからの国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者としての資質と自覚を養う。		
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる
評価の観点	知識・技能	我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができる。		主体的に学習に取り組む態度
	思考・判断・表現	我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができる。		主体的に学習に取り組む態度
	主体的に学習に取り組む態度	我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができる。		主体的に学習に取り組む態度
評価の方法	授業態度	授業態度		授業態度
	ワークシートの記述内容	グループ討論、発表の状況		ワークシート等課題の提出状況
	授業中の小テスト	ワークシートの記述内容		定期考査問題
評価の方法	定期考査問題	定期考査問題		定期考査問題

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開	1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造 1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化	◎	○	○	・織豊政権について理解することができる。 ・桃山文化について理解することができる。 ・幕藩体制の成立やその構造について理解することができる。 ・江戸幕府の安定期の政治について理解することができる。 ・江戸時代の経済発展について理解することができる。 ・元禄文化について理解することができる。 ・幕政の改革の特徴と意義について理解することができる。 ・幕府の衰退について理解することができる。 ・宝暦～化政期の文化の特徴について理解できる。
前期中間考査							
6-8	18	第8章 幕藩体制の動揺 第9章 近代国家の成立	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達	◎	○	○	・化政文化について理解することができる。 ・幕府や諸藩が行った諸改革について、その特徴を理解することができる。 ・国際情勢の大きな変容を、列強のアジア進出・日本への接近の背景として理解することができる。 ・東アジア情勢の変化に着目して理解することができる。 ・日清・日露戦争前後の時期に、資本主義経済の基礎が確立された過程を理解することができる。 ・近代産業と文化の特徴を理解できる。 ・第一次護憲運動以降の政党政治、国際環境の推移について考察できる。 ・ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過と大陸進出について考察できる。 ・大衆文化の欧米文化、社会風潮について考察できる。 ・恐慌と関東大震災、世界恐慌との関連を考察できる。 ・満州事変から国際連盟の脱退に至る状況を考察できる。 ・日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争それぞれの性格や戦時下経済と国民生活について考察できる。 ・GIQの政策と民主化政策、憲法の制定経緯を考察できる。 ・サンフランシスコ講和会議と日本の主権回復、日米安保の経緯について考察できる。 ・保守政権誕生と、外交政治経済を踏まえて考察できる。 ・特需景気と産業構造の高度化を考察できる。 ・石油危機を技術革新で乗り越え経済大国となり、貿易摩擦・円高への対応について考察できる。 ・冷戦終結後の国際構造の変化について考察できる。
前期期末考査							
9-11	33	第10章 二つの世界大戦とアジア 第11章 占領下の日本	1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	◎	○	○	・第一次護憲運動以降の政党政治、国際環境の推移について考察できる。 ・ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過と大陸進出について考察できる。 ・大衆文化の欧米文化、社会風潮について考察できる。 ・恐慌と関東大震災、世界恐慌との関連を考察できる。 ・満州事変から国際連盟の脱退に至る状況を考察できる。 ・日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争それぞれの性格や戦時下経済と国民生活について考察できる。 ・GIQの政策と民主化政策、憲法の制定経緯を考察できる。 ・サンフランシスコ講和会議と日本の主権回復、日米安保の経緯について考察できる。 ・保守政権誕生と、外交政治経済を踏まえて考察できる。 ・特需景気と産業構造の高度化を考察できる。 ・石油危機を技術革新で乗り越え経済大国となり、貿易摩擦・円高への対応について考察できる。 ・冷戦終結後の国際構造の変化について考察できる。
後期中間考査							
12-3	30	第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本	1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の変容	◎	○	○	・保守政権誕生と外交について政治経済を踏まえて考察できる。 ・特需景気と産業構造の高度化を考察できる。 ・石油危機を技術革新で乗り越え経済大国となった過程、貿易摩擦・円高への対応について考察できる。 ・冷戦終結後の国際構造の変化について考察できる。
(後期期末考査)							

3 年次	選択 3 5 + 3 6				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴	日本史 B	4	選択授業	黒澤 剛	
教科書	改訂版 詳説 日本史 B (山川出版)				
補助教材	最新日本史図表 三訂版 (第一学習社)				
目標	科目	我が国が形成される歴史的な過程を広い視野に立って学び、世界の中の日本という意識のもと、これからの国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者としての資質と自覚を養う。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能	原始・古代からの我が国の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けているか。歴史的事象にかかわる資料や情報を収集、選択し、活用することによって、歴史的事象を追究する姿勢を身に付けているか		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができるか。			歴史的事象に関心を持ち、意欲的に追究しようとしているか。
評価の方法	課題の提出状況	授業態度		授業態度	
	定期考査問題	ワークシートの記述内容		グループ討論、発表の状況	
	ワークシートの記述内容	定期考査問題		ワークシートの記述内容	
	授業中の小テスト			定期考査問題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	◎	○	○	・旧石器時代と縄文時代について理解することができる。 ・弥生時代について理解することができる。 ・古墳時代とヤマト政権について理解することができる。 ・飛鳥時代について理解することができる。 ・律令国家の成立について理解することができる。 ・奈良時代について理解することができる。 ・天平文化について理解することができる。 ・平安時代初期について理解することができる。 ・桓武朝政治について理解することができる。 ・国風文化について理解することができる。 ・桓武朝と武士の台頭について理解することができる。
		第2章 律令国家の形成	1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安朝廷の形成				
		第3章 貴族政治の国風文化	1 桓武朝政治 2 国風文化 3 桓武朝と武士				
		前期中間考査					
6-8	24	第4章 中世社会の成立	1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会	◎	○	○	・院政と平氏政権について理解することができる。 ・鎌倉幕府の成立について理解することができる。 ・武士の社会について理解することができる。 ・蒙古襲来と幕府の衰退について理解することができる。 ・鎌倉文化について理解することができる。 ・室町幕府の成立について理解することができる。 ・幕府の衰退と庶民の台頭について理解することができる。 ・室町文化について理解することができる。 ・戦国大名の登場 1 織豊政権 2 桃山文化
		第5章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場				
		第6章 幕藩体制の確立	1 織豊政権 2 桃山文化				
		前期期末考査					
9-11	44	第7章 幕藩体制の展開	1 幕府の安定 2 経済の発展 3 元禄文化	◎	○	○	・江戸幕府の安定期の政治について理解することができる。 ・江戸時代の経済発展について理解することができる。 ・元禄文化について理解することができる。 ・幕府の改革の特徴と意義について理解することができる。 ・幕府の衰退について理解することができる。 ・化政文化について理解することができる。 ・幕府や諸藩が行った諸改革について、その特徴を理解できる。 ・国際情勢の大きな変遷を、列強のアジア進出・日本への接近の背景として理解できる。 ・東アジア情勢の変化に着目して理解できる。 ・日清・日露戦争前後の時期に、資本主義経済の基礎が確立された過程を理解できる。 ・第一次護国運動以降の政党政治、国際環境の推移について考察できる。 ・ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過大陸進出について考察できる。 ・大衆文化の成立と社会風潮について考察できる。 ・恐慌と関東大震災、世界恐慌との関連を考察できる。 ・満州事変から国際連盟の脱退に至る状況を考察できる。
		第8章 幕藩体制の動揺	1 幕府の改革 2 幕府の衰退 3 化政文化				
		第9章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争				
		第10章 二つの世界大戦とアジア	4 日露戦争と国際関係 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦				
		後期中間考査					
12-3	40	第11章 占領下の日本	1 占領と改革	◎	○	○	・GHQの政策と民主化政策、憲法の制定経緯を考察できる。 ・サンフランシスコ講和会議と日本の主権回復、日米安保の経緯について考察できる。 ・保守政権誕生と外交について、政治経済を踏まえて考察できる。 ・特需景気と産業構造の高度化を考察できる。 ・石油危機を技術革新で乗り越え経済大国となった過程と、貿易摩擦・円高への対応について考察できる。 ・冷戦終結後の国際構造の変化について考察できる。
		第12章 高度成長の時代	1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺				
		第13章 激動する世界と日本					
		(後期期末考査)					

合計 140

3 年次	選択 3 3				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
地理歴史	地歴応用	3	選択授業	佐野 秀一郎	
教科書					
補助教材	基本白地図 最新版（二宮書店）				
目標	科目	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連をふまえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 公務員試験の社会科学分野や適性試験に対応できるような問題演習を行う。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。		現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性を踏まえて多面的・多角的に考察しようとする。		現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意識的に追究しようとする。
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・白地図		・小テスト ・定期考査 ・白地図 ・プレゼンテーション		・定期考査 ・白地図 ・プレゼンテーション

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	現代世界の特色と諸課題の地理的考察	・地球儀や地図からとらえる現代世界 ・白地図 ・小テスト ・公務員試験問題演習	◎	◎	○	・公務員試験にむけての実力を養成する ・用途に応じて適切な図法を用いることが理解できる。 ・日本の抱える領土問題が理解できる。 ・第二次世界大戦後に結成された国家群の特徴について理解できる。 ・グローバル化と日本の産業構造について理解できる。 ・人や情報の国際移動を通じて、一体化する現代世界の動向と課題について考察できる。 ・国際移動の特徴とその社会的背景について日本人の海外旅行を事例に考察できる。 ・諸地形の特徴について理解できる。
		前期中間考査					
6-8	18	現代世界の特色と諸課題の地理的考察	・公務員試験問題演習 ・世界の諸地域の暮らしと文化 ・白地図 ・小テスト	◎	◎	○	・公務員試験にむけての実力を養成する ・世界の各気候帯とそこに居住する人々の生活の特徴について理解できる。 ・言語と宗教を軸に、現代世界における文化の多様性について理解できる。 ・東アジアの生活・文化の特徴について理解できる。 ・東南アジアの生活・文化の特徴について理解できる。 ・南アジアの生活・文化の特徴について理解できる。
		前期期末考査					
9-11	33	現代世界の特色と諸課題の地理的考察	・公務員試験問題演習 ・世界の諸地域の暮らしと文化 ・白地図 ・小テスト	○	◎	◎	・公務員試験、面接にむけての実力を養成する。 ・中央、西アジア・北アフリカの生活・文化の特徴について理解できる。 ・ヨーロッパの生活・文化の形成について理解できる。 ・ロシアとその周辺諸国の生活・文化について理解できる。 ・北アメリカの生活・文化の多様性について理解できる。 ・中央・南アメリカの生活・文化の特徴について理解できる。 ・オセアニアの生活・文化の特徴について理解できる。
		後期中間考査					
12-3	30	現代世界の特色と諸課題の地理的考察 生活圏の諸課題と地理的考察	・公務員試験問題演習 ・地球の課題の地理的考察 ・日常生活と結びついた地図 ・白地図 ・小テスト ・プレゼンテーション	○	○	◎	・地球の課題の現状やメカニズムについて考察し理解できる。 ・地図はその目的に応じてさまざまな種類・表現のものを理解できる。 ・取り組みについて振り返りをさせる。
		(後期期末考査)					

合計 105

教科		科目	単位数	学級編成		担当者	
公民		倫理	2	選択授業		佐野 秀一郎	
教科書		高校倫理 新訂版（実教出版）					
補助教材							
目標	科目	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。					
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力	
		自分を知り、学ぶことができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。			他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート			・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション		・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	青年期の課題と人間の自覚	・青年期の意義 ・青年期の課題	◎	○	○	・人間の特徴について多面的・多角的に考察し理解を深める。 ・青年期の意義を理解し、その知識を身に付けている。
前期中間考査							
6-8	12	人間としての自覚	・ギリシャ思想 ・キリスト教 ・イスラーム ・仏教	◎	○	○	・自然哲学とソフィストについて理解できている。 ・ソクラテスの考え方や生き方について理解できている。 ・プラトンのイデア論とアリストテレスの現実主義とを比較できている。 ・古代ユダヤ教の教えについて理解できている。 ・イエスの説いたアガペーの意義について理解できている。 ・キリスト教の誕生とその後の展開について理解できている。 ・イスラームの成立の背景と偶像崇拝の禁止等の特徴を理解できている。 ・仏教以前のインドの思想について理解できている。 ・仏教の教えを理解し、その世界観や人間観の特徴を考察できている。 ・儒家思想の展開について理解できている。 ・老荘思想について儒家思想との比較ができている。 ・芸術の持つ意義について理解できている。
前期期末考査			・中国思想 ・芸術と人生				
9-11	22	日本人としての自覚	・古代日本の思想 ・日本の仏教思想 ・近代日本の思想 ・西洋思想の受容と展開・人間の尊厳 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人	◎	○	○	・日本の風土と日本人の気質の特徴について理解できている。 ・古代に日本人の宗教観や道徳観について考察できている。 ・日本で受容された仏教の特徴とその展開について理解できている。 ・日本文化と仏教との関係について理解できている。 ・日本で受容された儒教の特徴について理解できている。 ・江戸時代の多様な思想展開について考察できている。 ・水戸学など幕末において求められた思想について理解できている。 ・啓蒙思想と自由民権思想を理解し、日本の近代化の課題について考察できている。 ・日本におけるキリスト教の受容のあり方について理解できている。 ・西洋思想の受容と日本の近代化との関わりに関心を高め、意欲的に探究しようとしている。 ・日本の近代化における課題を多面的・多角的に考察できている。 ・明治以降の近代化における思想の変遷を理解し、その知識を身に付けている。
後期中間考査							
12-3	20	現代と倫理	・人間の尊厳 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人 ・人間への新たな問い ・社会参加と幸福 ・現代の諸課題と倫理	◎	○	○	・ルネサンスの特徴とそれがもたらした世界観や人間観について理解できている。 ・ルターやカルヴァンの思想と宗教改革が与えた影響について理解できている。 ・モラリストの思想について理解できている。 ・近代の自然科学及び機械論的自然観の特徴を理解し、それらが与えた影響について考察できている。 ・ペーコンとデカルトの思想について両者を比較しながら理解できている。 ・功利主義思想の特徴とその意義について理解できている。 ・実証主義や社会進化論、プラグマティズムの思想について、理解できている。 ・社会主義思想及びマルクスの人間観・社会観を理解し、現代の貧困や格差などの問題について考察できている。 ・理性中心主義を批判についても、思想を理解し、近代の人間観の課題について考察できている。 ・フランクフルト学派の思想を理解し、近代的な理性の問題点について考察できている。 ・生命倫理や情報化社会について理解を深める。
(後期期末考査)							

3年次		選択36、37				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地理歴史		政治・経済	2	選択授業	佐野 秀一郎	
教科書		最新政治・経済（実教出版）				
補助教材						
目標	科目	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
	能力	自分を知り、学ぶことができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けることができる。現代の政治、経済、国際関係に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用できる。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。			現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めることができる。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション			・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション	

年間計画

月 時数		単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標
4-5	16	第1編 現代の政治 第1章 現代国家と民主政治 第2章 日本国憲法と基本的人権	・民主政治の成立 ・民主政治の基本原則 ・民主政治のしくみと課題 ・世界のおもな政治制度 ・日本国憲法の成立 ・日本国憲法の基本原則 ・自由と生きる権利（1） ・自由と生きる権利（2） ・平等と生きる権利 ・社会権と参政権・請求権 ・新しい人権 ・人権の広がりや公共の福祉 ・ワークシート ・小テスト	◎	◎	○	・民主政治の本質や現代政治の特質を意図的に追究できる。 ・国民主権を原理とする民主政治の本質や現代政治の様々な特質について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現できる。 ・現代政治の特質に関する情報を収集し、適切に活用できる。 ・民主政治の基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けることができる。 ・主権者として憲法成立過程と基本的人権の内容を意図的に追究できる。 ・人権問題を多面的・多角的に考察し、根拠と考察を様々な方法で表現できる。 ・人権問題の時事的な資料を収集し、適切に活用できる。 ・憲法が普遍性を持つことに気づき、人権が生まれながらの権利であること、他者の権利を尊重することを理解し、知識を身に付けることができる。
		前期中間考査					
6-8	12	第3章 日本の政治制度と政治参加 第4章 現代の国際政治	・政治機構と国会 ・内閣と行政機構の拡大 ・公正な裁判の保障 ・地方自治と住民福祉 ・政党政治 ・選挙制度 ・世論と政治参加 ・国際社会と国際法 ・国際社会の変化 ・国際連合と国際協力 ・第二次世界大戦後の国際政治 ・冷戦終結後の国際政治 ・軍拡競争から軍縮へ ・ワークシート ・小テスト	◎	◎	○	・現代政治への関心が高まり、主権者意識を身に付けることができる。 ・政治について考察し、政治の在り方を公正に判断し、その結果を適切に表現できる。 ・主権者として判断に必要な情報を適切に選択し、活用できる。 ・日本の政治制度について理解し、その知識を身に付けることができる。 ・国際政治への関心を高めることができる。 ・国際政治の課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 ・国際政治の時事的事象の情報を適切に選択し、活用できる。 ・国際政治を理解し、その知識を身に付けることができる。
		前期期末考査					
9-11	22	第5章 日本の平和主義と国際平和 第2編 現代の経済社会 第1章 現代の経済社会	・平和主義と自衛隊 ・日米安全保障体制の変化 ・21世紀の平和主義 ・日本の外交と国際社会での役割 ・経済社会の変容 ・経済主体と市場の働き ・企業の役割 ・国民所得 ・経済成長と国民の福祉 ・金融の役割 ・日本銀行の役割 ・財政の役割と租税 ・日本の財政の課題 ・ワークシート ・小テスト	◎	◎	○	・平和主義の内容を意図的に追究できる。 ・安全保障の問題を多面的・多角的に考察し、根拠と考察を様々な方法で表現できる。 ・安全保障の問題の時事的な資料を収集し、適切に活用できる。 ・平和主義、安全保障について理解し、その知識を身に付けることができる。 ・現代の経済社会への基本的問題について関心を高め、意図的に課題を追究することができる。 ・経済活動に対する責任など、現代の経済社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、公正に判断して、適切に表現することができる。 ・現代経済の諸問題の資料を収集し、幸甚・正義・公正などの観点から適切に選択して活用することができる。 ・市場経済の意義と機能その限界など、現代経済の基礎的な知識や学び方を身に付けることができる。
		後期中間考査					
12-3	20	第2章 現代の日本経済と福祉の向上 第3章 現代の国際経済 第4編 現代社会の諸課題	・戦後復興から高度経済成長へ ・安定成長からバブル経済へ ・日本経済の課題 ・中小企業と農業 ・消費者問題 ・公害防止と環境保全 ・労働問題と労働者の権利 ・こどもたちの労働問題 ・社会保険の役割 ・貿易と国際収支 ・外国為替市場のしくみ ・第二次世界大戦後の国際経済 ・国際経済の動向（1） ・国際経済の動向（2） ・発展途上国の諸問題 ・経済協力と日本の役割 ・ワークシート ・小テスト	○	○	◎	・現代の日本経済の動向や雇用・労働、環境、社会保障に対する関心を高め、経済社会の一員としての意識を身に付けることができる。 ・消費者、労働、社会保障などについて多面的・多角的に考察し、様々な立場に立って公正に判断して、その過程や結果を適切に表現できる。 ・日本経済の課題に関する時事的事象の情報を様々なメディアを通して収集できる。 ・雇用・労働、社会保障、公害などについて理解し、その知識を身に付けることができる。 ・国際経済への関心を高めることができる。 ・国際経済の課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 ・国際経済の時事的事象の情報を適切に選択し、活用できる。 ・国際経済を理解し、その知識を身に付けることができる。 ・現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を、国内外を問わず適切に選択し、活用できる。 ・現代の日本がかかえるさまざまな課題について、国際的な視点も踏まえながら理解し、その知識を身に付けることができる。 ・国際関係に関わる諸資料を適切に選択し、活用できる。 ・国際社会がかかえるさまざまな課題を理解し、その知識を身に付けることができる。
		(後期期末考査)					

3 年次		選択 3 1、3 2				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
公民		公民応用	3	選択授業	佐野秀一郎	
教科書						
補助教材		最新図説 現社 浜島書店				
目標	科目	広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題等について客観的に理解させるとともに、主体的に考察し公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄を理解し、それに関わる知識を身に付けている。		現代の社会と人間に関わる事柄から課題を見出し、多角的・多面的に考察、多様な考え方を踏まえて公正に判断し、考察過程や結果を適切に表現しようとしている。		現代社会と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究し、より良い社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付け、人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしている。	
評価の方法	・授業態度 ・ワークシートの記述内容 ・小テスト ・調査 ・問題演習		・授業態度 ・グループ討論、発表の状況 ・ワークシートの記述内容 ・調査 ・問題演習		・授業態度 ・グループ討論、発表の状況 ・ワークシートの記述内容 ・調査 ・問題演習	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	25	現代社会の諸問題 現代社会と人間としてのあり方生き方	- 環境 - 生命と情報 - 青年期の形成 - 他者と共に生きる倫理 - 現代の国家と民主政治 - 日本国憲法と国民生活	◎	◎	○	- 環境、生命、情報の問題点を理解し、考察できる。 - 青年期の特徴を理解できる。 - モラトリアムの意味と問題を理解できている。 - 働くことの意義について考察できる。 - 外来文化の需要と日本の生活文化や伝統、宗教の特色の意義が理解できる。 - 基本的人権の歴史的な発展を理解できる。 - 法の支配の概念が理解できる。 - 民主政治の様々な形態を理解できる。 - 日本国憲法の制定過程について理解できる。 - 国会・内閣・裁判所の役割について理解できる。 - 憲法第9条と、日本の安全保障について考察することができる。
前期中間考査							
6-8	28	現代社会と人間としてのあり方生き方	- 日本国憲法と国民生活 - 国際政治の動向 - 現代の経済社会と政府の役割	◎	○	◎	- 地方自治の意味や役割について理解し、自分事として捉えることができる。 - 政党の役割、選挙の仕組みを理解し、主体的な主権者として自覚することができる。 - 国際社会の成り立ちについて理解できる。 - 冷戦の始まりと終結、新たな国際紛争などについて考察できる。 - 核兵器のあり方について考察できる。 - 世界の民族問題、人権の保障についての問題を理解し、考察できる。 - 市場経済における価格変動、寡占市場、市場の失敗について理解できる。 - 株式会社の形態、株式会社の意義などについて理解を深めることができる。 - 経済成長率について理解を深めることができる。 - 直接金融と間接金融、日本銀行の役割が理解できる。 - 財政の仕組み、租税の種類、国債について理解できる。
前期期末考査							
9-11	38	現代社会と人間としてのあり方生き方	- 経済活動のあり方と国民福祉 - 国際経済の動向と日本	◎	○	○	- 戦後日本の経済民主化の意義、高度経済成長、バブル経済とその崩壊について理解できる。 - 現在の日本の経済体制について考察できる。 - 中小企業の役割、農業政策の変遷について理解できる。 - 消費者問題について考察し、消費者としての自覚を深めることができる。 - 公害問題の変遷と環境対策について考察できる。 - 労働者としての諸権利や労働法制に対する理解と、雇用のあり方について考察を深める。 - 日本の社会保障制度について理解を深めることができる。 - 自由貿易と保護貿易、国際収支のあり方、紡機の自由化とその体制について理解できる。
後期中間考査							
12-3	14	共に生きる社会をめざして	- 国際経済の動向と日本 - 人間と自然、社会間・世代間の関係	○	◎	◎	- 日本国際協力の現状について考察できる。 - 世界の多様性を理解し、世界の人々と共に生きる社会の実現できるための方策について考察できる。
(後期期末考査)							

3 年次		選択 3 7				
教科		科目		単位数	学級編成	担当者
公民		公民発展		2	選択授業	高橋英典
教科書						
補助教材		最新図説 現社 浜島書店				
目標	科目	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。		他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立つて主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	
評価の方法	・授業態度 ・ワークシートの記述内容 ・小テスト ・考査 ・問題演習		・授業態度 ・グループ討論、発表の状況 ・ワークシートの記述内容 ・考査 ・問題演習		・授業態度 ・グループ討論、発表の状況 ・ワークシートの記述内容 ・考査 ・問題演習	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	青年期の課題と人間の自覚 人間としての自覚	1 青年期の意義 2 青年期の課題 1 ギリシャ思想 2 キリスト教 3 イスラーム 4 仏教 5 中国思想 6 芸術と人生	◎	◎	○	- 人間の特徴について多面的・多角的に考察し理解を深める。 - 青年期の意義を理解し、その知識を身に付けている。 - 自然哲学とソフィストについて理解できている。 - ソクラテスの考え方や生き方について理解できている。 - プラトンのイデア論とアリストテレスの現実主義とを比較できている。 - 古代ユダヤ教の教えについて理解できている。 - イエスの説いたアガペーの意義について理解できている。 - キリスト教の誕生とその後の展開について理解できている。 - イスラームの成立の背景と偶像崇拝の禁止等の特徴を理解できている。 - 仏教以前のインドの思想について理解できている。 - ブッダの教えを理解し、その世界観や人間観の特徴を考察できている。
前期中間考査							
6-8	12	日本人としての自覚	1 古代日本の思想 2 日本の仏教思想 3 近代日本の思想 4 西洋思想の受容と展開	◎	○	◎	- 日本の風土と日本人の気質の特徴について理解できている。 - 古代日本人の宗教観や道徳観について考察できている。 - 日本で受容された仏教の特徴と展開について理解できている。 - 日本文化と仏教との関係について理解できている。 - 日本で受容された儒教の特徴について理解できている。 - 江戸時代の多様な思想展開について考察できている。 - 水戸学など幕末に求められた思想について理解できている。 - 啓蒙思想と自由民権思想を理解し、日本の近代化の課題について考察できている。 - 日本におけるキリスト教の受容のあり方について理解できている。 - 西洋思想の受容と日本の近代化との関わりに関心を高め、意欲的に探究しようとしている。 - 日本の近代化における課題を多面的・多角的に考察できている。 - 明治以降の近代化における思想の変遷を理解し、その知識を身に付けている。
前期期末考査							
9-11	22	現代と倫理	1 人間の尊厳 2 民主社会と自由の実現 3 社会と個人 4 人間への新たな問い	◎	○	○	- ルネサンスの特徴とそれがもたらした世界観や人間観について理解できている。 - ルターやカルヴァンの思想と宗教改革が与えた影響について理解できている。 - モラリストの思想について理解できている。 - 近代の自然科学及び機械論的自然観の特徴を理解し、それらが与えた影響について考察できている。 - ペーコンとデカルトの思想について両者を比較しながら理解できている。 - 功利主義思想の特徴とその意義について理解できている。 - 実証主義や社会進化論、プラグマティズムの思想について、理解できている。 - 社会主義思想及びマルクスの人間観・社会観を理解し、現代の貧困や格差などの問題について考察できている。 - 理性中心主義を批判についても、思想を理解し、近代の人間観の課題について考察できている。 - フランクフルト学派の思想を理解し、近代的な理性の問題点について考察できている。
後期中間考査							
12-3	20	現代と倫理	1 社会参加と幸福 2 現代の諸課題と倫理	○	◎	◎	- 自然や他者との連帯・共生を目指す思想や社会参加の意義を意欲的に探究しようとしている。 - 生命倫理の基本的な考え方や生と死の問題などを理解できている。 - 環境問題や環境倫理の基本的な考え方を理解できている。 - 家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際社会の現状や課題を理解し、その望ましいあり方について考察できている。
(後期期末考査)							

3 年次		選択 3 2 + 3 3				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
数学	数学Ⅲ	6	選択授業		船水裕貴	
教科書	数学Ⅲ Standard (東京書籍)					
補助教材	WIDE数学Ⅲ (東京書籍)					
目 標	科 目	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。		事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。		平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	
評価の方法	・定期考査 ・単元テスト ・課題 ・授業における活動		・定期考査 ・単元テスト ・課題 ・授業における活動		・単元テスト ・自己評価シート ・授業における活動	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

○日常的なテーマ ●社会的なテーマ

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標	
4-5	48	関数と極限	○関数 ○数列の極限 ○関数の極限	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	◎ ○ ○	・定義域・値域を理解しグラフがかけられる。 ・極限(∞ , $-\infty$, 10 , -0 , 右極限、左極限)の感覚を養い、関数値がどのようになるが理解できる。 ・はさみうちの原理を理解できる。	
		微分	○微分法 ○いろいろな関数の導関数	◎ ○	○ ○	◎ ○	・導関数の意味を理解し、基本的な関数の積、商、合成、逆関数を微分できる。 ・三角、指数、対数関数等の微分ができる。	
		微分の応用	○接線、関数の増減 ○微分のいろいろな応用	○ ○	◎ ◎	○ ○	・微分を利用して、接線を求めたり、関数の増減や凹凸を調べたりできる。 ・グラフをかくことにより、最大値・最小値を求めることや方程式・不等式を解くことができる。 ・媒介変数で表示された関数の微分ができるようになる。速度や加速度と微分の関係を理解できる。	
前期中間考査								
6-8	36	積分とその応用	○不定積分 ○定積分 ○面積・体積・長さ	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	・三角、指数・対数関数の不定積分を求めることができる。合成関数の積分や置換積分、部分積分が計算できる。 ・さまざまな定積分の値が計算でき、定積分と区分求積法の関係が理解できる。 ・さまざまな関数の面積や体積を求めることができる。 ・曲線の長さや道のりを計算できる。	
		前期期末考査						
		複素数平面	○複素数平面 ○図形への応用	◎ ○	○ ◎	◎ ○	・複素数平面について理解し、図形式やド・モアブルの法則を利用して問題を解くことができる。 ・平行移動や回転移動を図形に適用することができる。	
9-11	66	平面上的の曲線	○2次曲線 ○媒介変数表示と極座標	◎ ◎	○ ○	◎ ◎	・放物線、楕円、双曲線の方程式を知り、2次曲線について理解を深めることができる。 ・極座標について理解し、極方程式で表せる図形を図示できる。	
		後期中間考査						
		まとめと復習	○[Level Up]の問題	◎	◎	◎	・これまでの知識を生かして、総合的な学習問題を解くことができる。	
12-3	60							
合計	210							

3 年次		選択 3 3				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
数学	数学応用 Ⅱ	3	選択授業		星野朋己	
教科書	なし					
補助教材	アクセスノート 数学Ⅰ+A 改訂版（実教出版）					
目標	科目	数学ⅠAの既習事項について、基本的な概念や定理・性質の理解をより深め、それらの有用性を再確認するとともに、事象を数学的に考察し活用しようとする態度を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・基礎的・基本的な事項を身に付けている。 ・既習事項を使って、数学的に考察し処理する技能を身につけている。		・既習事項と関連づけて考察し、適切に分析・判断する力が付いている。 ・疑問点を論理的に考察したり、他と協働して解決策を模索したりし、学びを共有することができる。		・学習内容に興味・関心を持ち、自らの進路目標を見据えて計画的に学習している。 ・既習の学習内容をさらに深く学ぼうと発展的な問題にも意欲的に取り組もうとしている。	
評価の方法	・定期考査 ・小テスト、単元テスト ・課題 ・授業における活動		・定期考査 ・小テスト、単元テスト ・課題 ・授業における活動		・定期考査 ・小テスト、単元テスト ・自己評価シート ・家庭学習 ・授業における活動	

年間計画

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	数と式	○整式の計算 ○実数 ○1次不等式	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	○ ◎ ○	・多項式の基本的な計算ができ、適切な形を選択して展開や因数分解ができる。 ・数を拡張することに興味を持ち、意味を理解できる。その上で、根号を含む式、絶対値記号を含む基本的な式の計算ができる。 ・不等式の性質について理解し、1次不等式を解くことができる。
		場合の数と確率	○集合と場合の数 ○順列 ○組合せ	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ◎	・樹形図を書いたり、数え上げができる。 ・順列や組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。
前期中間考査							
6-8	18	場合の数と確率	○確率の基本的性質 ○いろいろな確率	◎ ○	○ ◎	○ ◎	・確率の意味や基本的な法則について理解を深め、それらを活用して、事象の確率を求めることができる。 ・独立な試行、反復試行、条件付き確率の意味を理解し、基本的な法則に基づいて事象を考察した上で、それらを求めることができる。
		2次関数	○2次関数のグラフ ○2次関数の最大・最小 ○2次関数の決定	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ○	・2次関数について理解し、そのグラフをかくことができる。 ・2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ・2次関数の決定について理解し、問題を解くことができる。
前期期末考査							
9-11	33	2次関数	○2次関数のグラフと2次方程式 ○2次関数のグラフと2次不等式	○ ○	◎ ◎	○ ◎	・2次方程式の解を求めることができる。 ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係性について理解できる。 ・2次関数のグラフを用いて、2次不等式を解くことができる。
		整数の性質	○約数と倍数 ○ユークリッドの互除法 ○整数の性質の活用	◎ ◎ ○	○ ○ ◎	○ ○ ◎	・最大公約数、最小公倍数について理解できる。 ・ユークリッドの互除法を用いて、最大公約数や1次不定方程式を満たす値を求めることができる。 ・与えられた条件から、満たす整数を絞り込み、解を得ることができる。
図形と計量			○三角比 ○正弦定理・余弦定理 ○三角形の面積・空間図形への応用	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ◎	・三角比の意味やその基本的な性質について理解できる。 ・正弦定理や余弦定理を理解し、活用できる。 ・三角比や正弦定理、余弦定理などを用いて図形の計量に応用できる。
12-3	30	図形の性質	○三角形と比 ○円の性質 ○空間図形	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ◎	・三角形、円および空間図形に関する基本的な性質を理解できる。 ・既習事項を組合せ、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり、説明できる。
		集合と論証	○集合・命題と条件	◎	○	◎	・集合と命題に関する基本的な概念を理解できる。
(後期期末考査)			○データの整理 ○分散と標準偏差・相関係数	◎ ◎	○ ◎	○ ◎	・目的に応じたデータの収集、分析を行い、事象の特徴を説明できる。 ・分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味や使い方を理解できる。

合計 105

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
数学		数学応用 y	3	選択授業		後藤和幸
教科書		なし				
補助教材		エクセルライト数学Ⅰ＋A				
目標	科目	数学ⅠAの既習事項について、複雑な数学的事象や、さらに高度な数学に結びつく事象を数学的に考察し、それらの解法を通し、表現力やコミュニケーション力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	数学ⅠAの学習内容における基礎的な知識を身に付ける。		事象を数学的に推論し、処理する技法を身に付ける。数学的な見方や考え方を身に付ける。		数学ⅠAの既習事項における考え方に関心をもち、様々な事象を数学的に判断しようとする。	
評価の方法	・授業における活動 ・課題提出 ・定期テスト ・単元テスト		・授業における活動 ・課題提出 ・定期テスト ・単元テスト		・授業における活動 ・課題提出	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

○日常的なテーマ ●社会的なテーマ

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	数と式の研究	- 整式の加法・減法・乗法 - 因数分解 - 平方根、式の値 - 不等式、絶対値	◎ ◎ ○ ○	○ ○ ◎ ◎	○ ○ ○ ○	- 基本的な計算と、効率のよい展開や因数分解をすることができる。 - 根号や絶対値を含んだ式を扱い、不等式を解くことができる。
		場合の数と確率の研究	- 順列・組合せとその応用 - 確率とその応用	○ ○	◎ ◎	○ ○	- 順列と組合せについて、様々な問題を解くことができる。 - 確率および条件付き確率について、様々な問題を解くことができる。
		前期中間考査					
6-8	18	2次関数の研究	- グラフと最大・最小 2次方程式とその応用 2次不等式とその応用 - グラフの応用	◎ ○ ○ ○	○ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○	2次関数のグラフを用いて、最大・最小について考えることができる。 2次方程式、2次不等式や種々の問題をグラフを用いて解くことができる。
		図形の性質の研究	- 三角形の五心 - メネラウスの定理 - チェバの定理 - 円 - 方べきの定理	◎ ◎ ◎ ○ ○	○ ○ ○ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○	- 三角形の五心、メネラウス・チェバの定理について理解し、様々な問題を解くことができる。 - 方べきの定理や多面体にかかわる定理について理解し、複数の図形がかかわる複雑な図形についての問題を解くことができる。
		前期期末考査					
9-11	33	図形と計量の研究	- 三角比とその性質 - 三角比の拡張 - 正弦定理・余弦定理 - 三角形の面積・計量 - 空間図形の計量	◎ ○ ◎ ○ ○	○ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○	- 三角比の相互関係を理解し、正弦定理や余弦定理を活用できる。 - 三角比を面積や図形の計量に応用できる。
		集合と論証の研究	- 集合・要素の個数 - 命題と条件 - 命題と証明	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ○ ○	集合や命題について理解し、対偶や背理法を利用して証明することができる。
		後期中間考査					
12-3	30	整数の性質の研究	- 整数 - 整数に関する種々の問題	◎ ○	○ ◎	○ ○	- 最大公約数・最小公倍数、余りによる整数の分類が理解できる。 - ユークリッドの互除法を理解し、不定方程式を解くことができる。
		データの分析の研究	- データの整理 - データの分析	◎ ○	○ ◎	○ ○	データの代表値や散らばりについて理解し、2つの変量の相関をとらえることができる。
		(後期期末考査)					

3 年次		選択 3 2 + 3 3				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
数学	数学発展 8	6	選択授業		長瀬 肇 石橋 映子	
教科書	なし					
補助教材	例題から学ぶ数学 I + A 改訂版 例題編・演習編 (実教出版)					
目標	科目	数学 I A の既習事項について、基本的な概念や定理・性質の理解をより深め、それらの有用性を再確認するとともに、事象を数学的に考察し活用しようとする態度を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・基礎的・基本的な事項を身に付けている。 ・既習事項を使って、数学的に考察し処理する技能を身につけている。		・既習事項と関連づけて考察し、適切に分析・判断する力が付いている。 ・疑問点を論理的に考察したり、他と協働して解決策を模索したりし、学びを共有することができる。		・学習内容に興味・関心を持ち、自らの進路目標を見据えて計画的に学習している。 ・既習の学習内容をさらに深く学ぼうと発展的な問題にも意欲的に取り組もうとしている。	
評価の方法	・定期考査 ・単元テスト ・課題 ・授業における活動		・定期考査 ・単元テスト ・課題 ・授業における活動		・定期考査 ・単元テスト ・自己評価シート ・授業における活動	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

○日常的なテーマ ●社会的なテーマ

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	48	2次関数	○2次関数の最大・最小 ○2次関数の決定 ○2次関数のグラフと2次方程式 ○2次関数のグラフと2次不等式	○ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ○ ○ ◎	・2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ・2次関数の決定について理解し、問題を解くことができる。 ・2次方程式の解を求めることができる。 ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係性について理解できる。 ・2次関数のグラフを用いて、2次不等式を解くことができる。
		図形と計量	○三角比	◎	○	○	・三角比の意味やその基本的な性質について理解できる。
前期中間考査							
6-8	36	2次関数	○2次関数の最大・最小 ○2次関数の決定 ○2次関数のグラフと2次方程式 ○2次関数のグラフと2次不等式	○ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ○ ○ ◎	・2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ・2次関数の決定について理解し、問題を解くことができる。 ・2次方程式の解を求めることができる。 ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係性について理解できる。 ・2次関数のグラフを用いて、2次不等式を解くことができる。
		図形と計量	○三角比	◎	○	○	・三角比の意味やその基本的な性質について理解できる。
前期期末考査							
9-11	66	図形と計量	○正弦定理・余弦定理 ○三角形の面積・空間図形への応用	○ ○	◎ ◎	○ ◎	・正弦定理や余弦定理を理解し、活用できる。 ・三角比や正弦定理、余弦定理などを用いて図形の計量に応用できる。
		図形の性質	○三角形と比 ○円の性質	◎ ○	○ ◎	○ ○	・三角形に関する基本的な性質を理解し、活用できる。 ・円に関する基本的な性質を理解し、活用できる。
		集合と論証	○集合・命題と条件	◎	○	◎	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、活用できる。
		場合の数と確率	○集合と場合の数 ○順列 ○組合せ	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ◎	・樹形図を書いたり、数え上げができる。 ・順列や組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。
12-3	60	場合の数と確率	○確率の基本的性質 ○いろいろな確率	◎ ◎	○ ◎	○ ◎	・確率の意味や基本的な法則について理解し、それらを活用して事象の確率を求めることができる。 ・独立な試行、反復試行、条件付き確率の意味を理解し、それらを求めることができる。
		データの分析	○データの整理 ○分散と標準偏差・相関係数	◎ ○	○ ◎	○ ◎	・目的に応じたデータの収集、分析を行い、事象の特徴を説明できる。 ・分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味を理解し、それらを求めることができる。
合計 210							

3 年次		選択 3 7				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
数学	数学研究 A	2	選択（2 9 名 + 3 7 名 2 展開）		船水 裕貢 ・ 石橋 映子	
教科書	なし					
補助教材	・ 数学Ⅰ・A + Ⅱ・B 標準演習 PLAN100（数研出版） ・ 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 基礎徹底演習（ラーンス）					
目標	科目	数学Ⅰ、数学 A の既習事項について、複雑な数学的事象や、さらに高度な数学に結びつく事象を数学的に考察し、それらの解法を通して、表現力やコミュニケーション力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力・	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 数学Ⅰ、数学 A における、基礎的な知識を身にしている。 ・ 数学Ⅰ、数学 A の基礎的な知識を活用し、基本的な解法を用いて、課題を解決することができる。		・ 数学Ⅰ、数学 A で身につけた知識を活用し、事象を数学的に推論することができる。 ・ 数学Ⅰ、数学 A で身につけた知識を活用し、事象を数学的に処理し、解答として表現することができる。		・ 数学Ⅰ、数学 A で取り上げた数学的なものの見方や考え方に関心をもち、その良さを認識している。 ・ 数学Ⅰ、数学 A で身につけた知識を活用し、数学的な論拠に基づいて判断しようとしている。 ・ 課題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価、改善しようとしている。	
評価の方法	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ 課題 ・ 授業における活動		・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ 課題 ・ 授業における活動 ・ 演習問題の説明、質疑に対する応答		・ 単元テスト ・ 自己評価シート ・ 授業における活動 ・ 演習問題の説明、質疑に対する応答	

3 年次		選択 3 8				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
数学	数学研究 C	2	選択授業		船水裕賢	
教科書	なし					
補助教材	・ベシックススタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編（数研出版） ・大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 標準演習PLAN100（数研出版）					
目標	科目	数学ⅡBの既習事項について、複雑な数学的事項やさらに高度な数学に結びつく事象を数学的に考察し、それらの解法を通して表現力やコミュニケーション力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	複素数、図形、三角・指数・対数の各関数、微積分、ベクトル、数列において基礎的な知識を身につけ、数学的に推論し処理する技法を身につける。		複素数、図形、三角・指数・対数の各関数、微積分、ベクトル、数列において数学的な見方や考え方を身につける。		複素数、図形、三角・指数・対数の各関数、微積分、ベクトル、数列において考え方に関心を持ち、数学的に判断しようとする態度を身につける。	
評価の方法	・定期考査 ・単元テスト ・課題 ・授業における活動		・定期考査 ・単元テスト ・課題 ・授業における活動		・単元テスト ・自己評価シート ・授業における活動	